

を附く梁取の事なり如ふ既小梁取落城是ふ依て田口
八柳永山等梁取の辺に陳取の市戸は勢の内に伊孫
八節といふ者今度の毎道人木村父子を討忠切ふ致し
名を揚んと思ひ幸ひ六郷伊賀守曰長三節又百金弱
川崎並張小川の城を攻んとし討手便を致し木村
父子を始三十余人討取道盛公伊賀又五十貫文の地を
あてしむ備後守ふたうし仁賢保孫九節始めより道
盛公小降服是ふ依る仁賢保ふ小領五百貫文ふ仙北
郡の内芋山百貫文ふいり吉井仁賢保兵庫ふ五十
貫文路ふさるふ京都三條ふ住しり宿屋は法藏といふ

者角館は下りて天下に執權織田右大臣信長公小所
い昔道盛公は上り則前田但馬守といふ者小白茅
宿屋下居駿馬を曳せ使者を御登せは成徳天正八年七
月十二日清須に着丹羽五郎左門を頼み是ハ羽扇仙北の
領主前田但馬守利宗と名ふ秋上所禮中上りれむ
信長公は何は遠國より馳登る条神妙累代領する
所相遠るを金りしづられ昔安堵の所教書を致し其
後法藏尾品ふさる宿屋を賣て居たりり如前田
の振舞を聞て大に敬馬ふは儀を聞るなり其後にて
をりんを曰ひの恩を忘るに似たり述やぐて角館にせ